

令和5年度

つくばみらい市認知症初期集中支援チーム検討委員会
議事録

つくばみらい市認知症初期集中支援チーム検討委員会

■日 時 令和6年2月20日（火）午後6時から午後7時

■場 所 つくばみらい市役所 伊奈庁舎3階 会議室

■出席者 【委 員】

江湖山委員、飯島委員、宮本委員、市毛委員、菊池委員

【認知症初期集中支援チーム】

小松崎医師、堤精神保健福祉士、阿部保健師、土井保健師、

横田看護師、藤木看護師

【事務局】

草間保健福祉部長、介護福祉課八木課長、野澤課長補佐、原田

社会福祉協議会浅川局長、伊藤課長

■次 第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 認知症初期集中支援チーム活動報告

(2) その他

4. 閉会

1、2 省略

3（1）認知症初期集中支援チーム活動報告

<事務局より資料1に基づき説明>

<初期集中支援チーム（以下、支援チーム）より資料2に基づき説明>

- 会 長 ご意見、ご質問はありますか。
- 会 長 報告の中で、道に迷っている認知症の方を、キャラバン・メイトが発見し、声掛けを行ったことで支援につながった事例があったとの報告でしたが、キャラバン・メイトはどんな役割で何人くらいいるのか。
- チーム キャラバン・メイトは、認知症について正しく理解し地域で温かく見守る応援者となるための認知症サポーター養成講座の講師役として活動しているボランティアで、研修を受けた市民メイトが約12～13名ほど、また、介護職員のメイトも活動していただいております。今回の事例で、道に迷っているところを市民メイトが発見し、声をかけて家まで連れて帰ってくれた事例がありました。市民の方の「困っているかもしれない」という気づきが早期の支援につながったと思います。今後も地域で温かく見守っていただける方を増やしていく取り組みを引き続き続けていきます。
- 委 員 拒否が強く支援ができない事例の場合、どのように支援が継続されていくのか。
- チーム 初期集中支援としては終了となるが、引き続き地域包括支援センターの地区担当職員が根気強く訪問支援を継続します。今回の事例でも継続して訪問支援をした結果、ようやく訪問診療を始めることができるようになりました。
- 委 員 医療機関やケアマネジャーは、どのような方を初期集中支援チーム

に相談したらよいかわからないため、具体的な事例を提示しながら周知啓発を行うことは良いことだと思う。

- 委員 相談に来る方の中に、最初から初期集中支援で相談したいという方はいるのか？
- チーム 初期集中支援で相談との希望はなく、すべての相談を地域包括支援センターの総合相談で受けています。
- 委員 初期集中で関わる事例と地域包括支援センターで関わる事例に違いはあるか。
- チーム 基本的に違いはないが、早期に介入する必要性があったり、医療機関につなぐ必要がある事例については初期集中支援チームで関わる人が多いです。相談ルートは違っても、必要な方は初期集中支援チームで関われるよう、仕組みを作っていきたいと思います。

(2) その他

<事務局より資料3に基づいて説明>

- 会長 ご意見、ご質問はありますか。
- 委員 サポーター養成講座で子どもに講座を行うことは良いと思いました。地域で認知症の方を見守る体制がとても重要と感じておりますので、たくさんの方に認知症への理解が深まるとよいと思いました。
- 委員 認知症予防の取組みの中で、あたまの健康チェックは、どのように受けることができるのか？
- 事務局 あたまの健康チェックは広報紙などでの周知と、65歳の方に個別通知をしています。また、介護予防教室の参加者に介護予防活動への動機づけとしても実施しています。
- 委員 認知症かなと気づいてもらうために簡単にチェックできるものがあるといいなと思います。

地域包括支援センターが作成している認知症ハンドブックには、認知症気づきチェックリストを掲載しており、訪問時に活用できるとよいかなと思います。

○委員 認知症の治療については、新薬が承認され話題になっておりますが、ほとんどの病院でまだ対応できていない状況です。新薬の適用になる方は限られており、治療もとても大変なため、すべての認知症の方に適用されるわけではありません。むしろ適用となる方は非常に少ないと考えています。

○会長 他になければ、これで今日の議事は全て終了いたします。

5 閉会